

02 目次・特集「合気道開祖・植芝盛平翁  
没後 50 周年を迎えて」

08 トップニュース  
生涯学習フェスティバルを開催します / 市税に対  
するご理解と納期限までの納税をお願いします

14 情報ボックス  
安川溪谷トレッキングを開催します / 住宅耐  
震診断等の補助をします

20 相談日程等

22 みんなの広場

26 みんなの彩時記  
商店街が歩行者天国に紀南の魅力が集結 / 芳養  
で秋祭り各町内会がのぼりを奉納 ほか



今月の表紙写真

今月の表紙は、植芝盛平翁のお墓を手入れしている五味田由紀子さん。月に2、3回はお墓の周りを掃除したり、お花を入れ替えたりしているそうです。

紙面で使用するマーク等の説明

- |            |            |
|------------|------------|
| 日…日付・期間    | 冠…定員       |
| 時…時間       | 金…料金・費用    |
| 休…休館日      | 持…持ち物      |
| 場…場所       | 申…申込み・申請方法 |
| 集…集合       | 問…問合せ      |
| 内…内容       | [消印]…消印有効  |
| 対…対象・参加資格等 | [先着]…先着順   |

◇☎マークには、振替休日等も含まれます。  
◇料金や申込み方法の記載のないものは、不要です。  
◇市役所の開庁時間（申込み・問合せ等の受付を含む。）は、☎を除く月～金の8時30分～17時15分です。毎週☎は、市民課・保険課・税務課の一部窓口を19時まで延長しています。

特集  
合気道開祖・植芝盛平翁  
没後 50 周年を迎えて



幼い頃から武道に励み、19歳で修行の旅に出て各種の武術遍歴を重ねつつ独自の武術を確立した植芝盛平翁。昭和17年（1942年）に『合気道』と名付け、国内だけではなく、世界中にその名を広め、昭和44年（1969年）に田辺市名誉市民の称号を受けました。  
今年はそのような翁の没後50周年。この機会に改めて、これまでの合気道や翁の歩みについて振り返ってみましょう。  
☎ 田植芝盛平翁顕彰会事務局（スポーツ振興課 市民スポーツ係）  
☎ 0739（25）2531

合気道とは

合気道は、植芝盛平翁が日本伝統武術の奥義を究め、さらに厳しい精神的修行を経て創始した現代武道です。

合気道は相手といたずらに強弱を競いません。入身と転換の体捌きと呼吸力から生まれる技によって、お互いに切磋琢磨し合って稽古を積み重ね、心身の錬成を図ることを目的としています。また、他人と優劣を競うことをしないため、試合や競技を行いません。  
合気道の道場には、年齢・性別・職業・国籍を問わず多くの人が集まり、共に稽古で汗を流すことで交流を深められます。

世界に広がる合気道

合気道の海外普及は1950年代から始まり、平成30年（2018年）には世界の約7割に当たる140もの国と地域に組織・団体があります。この海外普及の結果、昭和51年（1976年）に国際合気道連盟（IAF）が結成され、国際大会と総会が4年ごとに開催されています。

公益財団法人合気会の取組

翁の創始した合気道の継承を支援し、合気道による心身の錬成と普及振興を図り、体育の発展に寄与することを目的とする合気会という公益財団法人が設立されています。

全国約2400か所の道場・団体の交流と振興を図っており、理事長は、翁の孫に当たる植芝守央道主が務めています。合気会が主催する全日本合気道演武大会は、毎年5月に日本武道館で行われており、約8000人が演武をする、最大級の武道大会となっています。

（公益財団法人合気会ホームページより）



一八八三年	現在の上の山に生まれる。
一八九七年	各種の武術遍歴が始まる。
一九一二年	北海道開拓民の団長として上湧別村(現・遠軽町)に入植。
一九一五年	大東流柔術の修行に励む。
一九二〇年	綾部町(現・綾部市)に移住。肉体的・精神的修行に励み、植芝塾を開塾。
一九三一年	本格的道場の皇武館完成。
一九四〇年	財団法人皇武会設立。この頃から合気武道と呼称。
一九四二年	合気道と呼称。岩間町(現・笠間市)に移住。
一九四八年	財団法人皇武会を財団法人合気会に改組再編成。
一九六〇年	紫綬褒章を受ける。
一九六四年	勲四等旭日小綬章を受ける。
一九六九年	田辺市名誉市民の称号を贈られる。4月26日5時、逝去。この日、正五位勲三等瑞宝章を受ける。



合気道の開祖植芝盛平翁は、和歌山県西牟婁郡西ノ谷村(現在の田辺市上の山)に生まれました。

幼い頃は、決して武道家になるような感じはなく、どちらかと言えば虚弱体質で神経質な少年でした。それが、合気道という気・心・体の極致とまで言われる武道を生み出し、今日の繁栄を築くには、大変な苦労と努力があったからです。

86年の生涯で、たゆまぬ求道鍛錬の結果得たものは、「天地人和合の道」でした。それは、体を鍛え、技を磨くことによって気と心を鍛え、平和と愛の力、つまり真の和を求めようとする合気道の精神です。翁は常々「合気とは敵と戦い敵をやぶる術ではない。世界を和合せ、人類を一家たらしめる道である」と言い、そもそも合気道は、勝ち負けを決めるものではなく、切磋琢磨をはかり、

自己の人格完成を目指す武道だと述べています。つまり、「合気道とは、各人に与えられた天命を完成させてあげる羅針盤であり、和合の道であり、愛の道」なのです。

翁の道場には、柔道家・嘉納治五郎が訪れ、海軍大学校長の高橋三吉、歌舞伎役者の六代目菊五郎や作家の中里介山など多くの著名人が門を叩いています。

合気道は、日本のみならず世界の武道として広く愛されるところにも大きく発展を続け、昭和63年(1988年)には田辺市で第5回国際合気道大会が華々しく開催されました。その記念として扇ヶ浜公園内に、翁の銅像が建てられています。

このほか、翁を称え、田辺市では植芝家先祖代々の墓、盛平翁の生家跡、植芝盛平頌徳碑などを保存顕彰しています。

道場でインタビュー

合気道を始めて良かった

高山寺道場で出会ったのは、2人のお子さんを通わせているお母さん。

子供たちは、他にスポーツはしておらず、何か武道を経験してたくましくなっただけという思いがあったとのこと。空手などの武道も考えましたが、合気道のように相手の攻撃に対して防衛(受身)をする方が本人たちには合っていたそうです。

お母さんは「普段からとても大人しい性格でしたが、合気道を始めて、よく声が出るようになりました。また、挨拶などの礼儀や姿勢も良くなり、日常の中でも良い影響がありますよ」と喜んでいました。

合気道の教えをカナダにも

稲成道場で出会ったポール・ルイスさんは、以前日本に来た際、合気道に出会ったとのこと。

大学を卒業してすぐ、仕事の関係で初めて紀南地域を訪れたルイスさん。その際に、合気道という武道を知り、合気道田辺道場の五味田先生を紹介していただいたそうです。日本に滞在していた約8年間はもちろん、カナダへ戻った後も稽古に励みました。数年後に再び日本を訪れて初段の昇段審査を受け、見事に合格。とてもうれしかったです。

ルイスさんは、カナダでも合気道の良さを伝えたいと「量を30枚程買って帰国しました」と笑顔。将来的には、自分の子供にも合気道を教えたいと話してくれました。



和歌山県合気道連盟 副会長 合気道田辺道場 道場長 五味田 聖二 さん

幼い頃から武道に励み続けた先生(植芝盛平翁)は、武道界において実力が高く評価され、独自の武道として合気道が完成するよう努力されてきました。今年、そんな先生の没後50周年を迎え、先生に直接稽古を受けた方は、だんだん少なくなっています。私が道場に入門した当時、先生はすでに70歳でした。座っている姿は、年相応のご老人にしか見えませんが、一たび道着を着て立った姿は全くの別物。周りを圧倒するような雰囲気を感じました。

先生は、技が盗まれ、それが本当の技ではなく真似事になることをおそれ、稽古をするときは大人数の前ではしませんでした。時代とともに技も変わり、現在、合気道の技は教え切れないほどあります。それでも先生の時代から継承されてきている技を今後も残していきたいと思っています。今も、世界中から先生のお墓や道場へ訪れる方が、年間何百人といえます。顕彰施設もできることになり、今後さらに合気道が持つ『精神』を引き継いでいければうれいすね。



ポール・ルイス さん (カナダ在住)

## 合気道に触れよう

### 植芝盛平翁没後 50 周年記念事業『植芝盛平翁の故郷を訪ねて』

植芝盛平翁の故郷である田辺市で、翁の偉業を讃え偲び、その功績を永く後世に伝承するとともに国内外に発信するために、今年も下記のとおり記念事業を開催します。

【11月9日①】

◇合気道少年の部講習会

時 13時～14時（受付は12時15分～）

場 田辺市体育センター

対 小・中学生の合気会会員

◇植芝守央合気道道主特別講習会

時 14時30分～16時（受付は12時15分～）

場 田辺市体育センター

対 高校生以上の合気会会員

料 2000円



昨年の講習会の様子

【11月10日②】

◇植芝盛平翁を偲ぶ会（植芝盛平翁没後 50 周年の法要）

時 8時30分～9時30分（受付は7時30分～）

場 高山寺

◇ねんりんピック合気道交流大会

時 12時30分～14時50分（受付は12時～）

道主特別演武 14時50分～15時

場 紀南文化会館「大ホール」

参加組数 53組（ねんりんピック 34組、一般 19組）

【11月9日・10日】

◇植芝盛平翁遺品・パネル展

時 9日 13時～19時、10日 10時～16時

場 紀南文化会館「展示ホール」

市で保管している遺品の他にも、貴重な遺品が展示されますので、是非この機会にご来場ください。



書と銃剣  
（市で保管）

### 新武道館建設中 植芝盛平翁顕彰施設を併設！

新武道館に併設される顕彰施設では、合気道と翁について知ることができるいくつかのブースが設けられます。現在、扇ヶ浜公園内に建設中で、来年秋に完成予定です。

◇和合の間……合気道とは何かを知る

◇翁ゆかりの品

◇合気道体験

◇ライブラリーコーナー……合気道に関する書籍、翁の映像など

◇「合気道」功績ウォール……日本中に、そして世界に広がる合気道の歩み

◇「植芝盛平」顕彰ウォール……翁の人生を3期（幼年・青年期、壮年期、晩年期）に分け、その歩みを解説 他



植芝盛平翁顕彰施設パース図

## 開祖ゆかりの地

外国人の方が、合気道田辺道場を見学することが増えたので、市内ゆかりの地を絵地図にした生駒さん。訪れた方には、お土産代わりにお渡ししているそうです。

日本語と英語版  
がありますよ♪



生駒和歌子さん



市内ゆかりの地

- ①銅像（扇ヶ浜公園）
- ②生家跡（上の山）
- ③頌徳碑（市立武道館横）
- ④記念碑（駅前広場）

### 植芝盛平翁ゆかりの地として 友好都市提携を結んでいる3市町

#### 綾部市

現在の遠軽町に移住していた翁は、大正8年（1919年）に父親の危篤の報を受けて帰郷を決心。その帰途で旅人から病氣回復を祈願してくれるところがあると聞き、京都の綾部町（現在の綾部市）に立ち寄り、そこで宗教家の出口王仁三郎と出会い、人間の生きる道についての説法を受け、自らの生きる道を見出した。翌大正9年（1920年）には一家で綾部に移住し、そこで「植芝塾」を開塾する。

#### 遠軽町

明治45年（1912年）、翁が率いる紀州団体54戸（80人余り）が上湧別村（現在の遠軽町）に入植し、これが村の開基となった。翁は、厳しい自然条件の中での開拓の傍ら武道の修行に励み、日本古来の伝統柔術の流れの中から「合気道」の基礎となる部分を確立したと伝えられている。また、翁は8年間の上湧別村在村中、村議会議員として地域の発展に尽くした。

#### 笠間市

昭和17年（1942年）に翁が東京から移り住んだ土地であり、「武農一如」の理想を追求して、この地に修練道場を開くとともに、日本でも唯一となる合気神社を建立し合気道の一大拠点とした。その後26年間この地に在住し、修業の傍ら国内はもとより海外にも合気道の普及に力を尽くした。

